



大学も関与する地域歴史文化継承事業の新しい動き

坂江, 渉

(Citation)

歴史文化をめぐる地域連携協議会予稿集, 11:9-10

(Issue Date)

2013-02-02

(Resource Type)

conference object

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81004426>



□襖の下張り文書をめぐって

- ・旧家や寺に保管されてきたもの、自然災害で被災したもの、ゴミ焼却場で捨てられようとした襖など→救い出し、専門家の指導を仰ぎ、剥離作業をおこない、断片的(下張り文書)資料の整理と解説へ(三木市旧玉置家住宅、たつの市八瀬家住宅、加西市野上町、佐用町) (cf)生の資料に触れることの意味
- ・「剥離や保存のための整理作業を学ぶだけでなく、古文書の中身についても勉強したい」「下張り文書の中にこれまで知られてなかった村の歴史が隠されているのではないか」

三、学び取った成果を次の世代につなげようとする努力(未来志向)

▼調べ学んだ成果物を何らかの形で公表し、それを次世代につなげて行きたいという意識

- 公表の仕方…大字誌、聞き取り調査のデータベース化(香寺町史、小野市)、手作りミニ展示会の開催と図録の作成、バーチャル博物館(尼崎市富松地区)、「大字」歴史マップの作成(伊丹市御願塚地区、明石市の新事業)…



- 「自分たちの自己満足だけでなく、地域内の若い人たちに継承して行きたい」「地元の歴史文化を正確に知ってもらい、それを後世につないで行くことが使命」(丹波市棚原地区)「いま誰かが記録を残さないと永遠に歴史が失われてしまう」(姫路市香寺町)「旧住民であっても、実は地元の歴史を知らないことが分かった」(山本地区)…

四、横のつながりを広めていく工夫

- ▼仲間うちとしての活動や、「一発イベント」ではなく、仲間を増やし、持続性をもたせた活動(基本は楽しく)
- 新旧住民の交流…ニュータウン住民にも地域の歴史文化を知ってもらう工夫(姫路市香寺町、宝塚市山本地区、尼崎市富松地区)
- 若い世代への継承を意識した行政の取り組み
→小学生と親(母親)と高齢者(小野市立好古館の地域展)

五、行政の側のはたす役割

▼地域歴史文化を継承していく活動に不可欠なもの

- ①これまで収集されてきたその地域の歴史情報や歴史資料の活用
各自治体の資料館(文書館)、博物館等の所蔵資料、既刊の自治体史、文化財関連部局(生涯学習課)→担当者:未指定の歴史資料等を活用することへの「理解」
- ②一定の専門的知識
地域内の文化財情報、古文書の整理・解説、下張り文書の剥離・保存技術(←大学からの支援)。
- ③活動を支える資金
 - ・現状—自治体の財政難、行政サービス力の低下(自治体合併)
↓(しかし)
 - ・さまざまな助成金制度の活用(文化庁、観光振興課、県民局等)や、(わずかな額でも)経費を捻出して行けば、局面を打開できる可能性はある。

おわりに